ファンタスティック-ワールド

悲喜 小守

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ファンタスティック－ワールド

【Ｎコード】
Ｎ０６８７Ｈ

【作者名】
悲喜　小守

【あらすじ】
愛流は月を見ながらある言葉を唱えた。そのまま眠りにつき、目が醒めるとそこは未知の世界だった。

異世界

夜、いつものように天井の小窓を見つめながら愛流(あいる)はベットに寝転んでいた。
今の時間だと、丁度小窓の中に月がおさまっている。
愛流はそのまま小窓を見つめながらこう言った。

「Ｇｏｏｄ　ｎｉｇｈｔ，　ａ　ｍｏｏｎ．」

そしてそのまま瞳を閉ざし、数分後、彼女は夢の世界へ旅だった。

次の日、目覚めると何故か天井に小窓は無かった。
どう言う事だと起きあがり、あたりを見回すとそこは眠りにつく前いた自室ではなく全く知らない部屋だった。
シンプルな造りのその部屋にはベット、机、本棚、ソファとベットから見て左右の壁に窓が一つずつ。そして扉が一つ。
天井は高く、部屋も広かった。

綺麗に整頓されている机に手をかけようとした所だった。

「あいるー、朝ご飯よー。下りて来なさい」

驚き思わず机から手を引っ込めてしまった。
机に置いてあったスピーカーから声がしたからだった。

「愛流、聞いてるの？」

尚も響くその声はどうやら母親か姉のようだ。
澄んだ声、大人びた話し方からそのような想像が生まれた。
とりあえず変に思われてはまずい。私はそう思い、スピーカーの横の小型マイクらしき物に口を近づけ言った。

「うん、今行く」

そして扉へと向った。

扉を出ると右手に階段、左手が行き止まりとなっていたので階段を下りる。
そして左側から何やら美味そうな食べ物の香りがした。
そちら側が恐らくキッチンだろうとそちらへ歩を進める。
奥まで来ると香りもはっきりと味噌汁の香りと分かった。
そしてキッチンには綺麗な女の人がテーブルに食事を並べていた。

「あら、愛流。やっときたの？」

「あ…う、うん」

「朝は忙しいんだからもっと早く下りてきなさいよ。
愛流も学校があるでしょうに」

「…ごめん」

「とにかく座りなさい。食べるわよ」

「うん」

「いただきます」

女の人が言ったのに続いて、愛流も小さくそう言った。

１０分程で朝ご飯も食べ終わり、母親らしき人に着替えてくると伝え、

再び二階のあの部屋へ向った。

「ふぅ…」

初めて会う人間とさも会った事があるように接するのは物凄く疲れる。

そして今まで起きた出来事を整理するとある事実が浮かんでくる。

母親らしき女性は愛流のことを知っている。

だが、愛流はその女性を全く知らない。

つまり、昨日の呪い(まじない)は成功した。と言う事だ。

呪いとは、昨日、愛流が眠りにつく前に月を見ながら言ったあの台詞の事だ。

アレを唱えると別の世界、つまりパラレルワールドに行けるという物だった。

新しく刺激が欲しいと言う事もあり、半信半疑の中、これを唱えたと言う事だ。

つまり私はこれからいつ戻れるか、もしかしたら戻れないかもしれない中、

この世界で生きて行かねばならないと言う事だった。

篠塚夏蓮

私はもう、帰れない？

愛流は思った。

だけど、早く着替えなければ母親がまた不信がる。

なのでいそいそと制服らしき物に着替えた。

そして、怪しまれないように、愛流は学校へと向った。

外に出ると道が二手に別れていて、どちらに進もうかと迷ったが、

とりあえず右手側の道を歩いた。

暫く真っ直ぐ歩いていると、今、愛流が着ている制服と同じ造りの

制服を来た女生徒が歩いていた。

「（とりあえずあの子に付いて行こう）」

暫く付いて行くと、学校らしきものが見えてきた。

「（ここが、この世界の私の学校…？）」

そう思っていた時だった。

「あーいる！」

ガバッと誰かが抱き付いて来た。

驚いて振り向くとそこにいたのは…

「夏蓮（かれん）！！」

元の世界での友人、篠塚(しのづか)夏蓮だった。

「何、その驚き方〜
まるでそこにいない人がいてビックリ〜みたいな？」

「えっ、そ、そんなワケ無いじゃん！
急に抱き付いて来たからビックリしただけだよ」

「そう？いっつもは驚かないからさ〜」

この世界の夏蓮と、元の世界の夏蓮は姿は同じだけれど中味は全く違うようだった。
元の世界の夏蓮はもっと大人しくて謙虚な子だ。
けどこの夏蓮は…

「（豪快…）」

「ん？何か言った〜？」

ボソリと豪快と口にすると、夏蓮が振り向いた。

「いや、何でも。」

自分の能力に驚く。
まさかこんなに（嘘の）演技が上手いとは…
でも、友人に会えてよかった。

「ね、ねぇ、夏蓮。私のクラスって何処だっけ？」

「は、何言ってんの?!ついにボケた?」

「違うよ!」

「じゃあ何?」

「ちょ、ちょっと寝起きにぽろっと…」

そう言うと夏蓮は固まった。
そして不信そうな顔をしてからC組だよと言った。

「あたしと一緒のね!」

次には満面の笑みだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0687h/

ファンタスティック-ワールド

2011年1月27日14時13分発行